

ペルー産ブドウ 減収と米国の強い需要で欧州では高値

FreshPlaza 2023年10月3日

オランダ企業ファン・デル・ランズ・インターナショナル社のタイス・ターウイント販売部長は最近、同社と取引のあるペルーの果実販売業者を訪問した。同氏はエルニーニョが生産にかなりの影響を与えるのを目の当たりにし、「これによって様々な農産物の入手が困難になる」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

輸入業者らの現地視察では、北部のピウラ県も訪れた。「この地域のマンゴー栽培は特に大きな打撃を受けた。タンボグランデ地域では、生産者の収量は50～60%も低下している。早生ブドウ(種有りと種無しの方)も30%減少すると予想される。ブドウの輸出は暑さのために早く始まった。訪問中、いくつかの品種が小さいことに気づいた。」

「今シーズンはペルー産のブドウに対する北半球の需要が全般的にその供給を上回るだろう。これは特に、ハリケーンヒラリーが米国カリフォルニア州のブドウに甚大な被害を与えたことで、北米市場がペルー産のブドウを求めているためである。彼らは気前よくお金を払うつもりであり、また、主に梱包が容易な8.2kgのパッケージを輸入しているので、輸出業者は箱詰めに煩わされる必要はない。」

「欧州市場では域内産の種なしブドウがまだ市場に出回っているが、10月下旬までになくなるだろう。例えば、ギリシャ産はすでに品質の問題が出てきている。ブラジル産は通常最初に入荷する海外産のブドウである。しかし、それらも価格が高く、さらに輸入関税を追加する必要がある。ペルー産も同様の一般的な傾向が見られる。つまり、近年市場に多く出回っているが、価格が高く入手が難しい。」

ペルーでは晩生のアボカドの出荷量も今年はかなり少なくなっている。2024年産の興津早生ミカンも量が十分でないようである。「不思議なことに、この品種の果樹にはほとんど実がない。」同社はまた、ペルー全土からザクロを輸入している。「例年は1月に収穫を始めるが、今年は早ければ12月20日に南部でザクロの収穫が始まる見込みである。早期のスタートは販売面で興味深いものになる可能性があるが、それはまだ推測である」と同氏は結論付けている。

(関連記事)ペルー 2023年前半のブドウ出荷量は9%増加

FreshFruitPortal 2023年10月5日

ペルーの生食用ブドウ産業は、2023年の最初の2つの四半期に前年比9%の成長を記録し、農業開発灌漑省(MIDAGRI)は、ペルーが引き続き世界最大のブドウ輸出国の座に留まると予想している。

同セクターが経験した最近の気候の問題に関してMIDAGRIは、弱いエルニーニョ現象が発生した場合、2023年の出荷量は横ばいか、または最初の6か月の出荷量が10%多かったため、前年と比較してさらに増加する可能性が高いと報告した。

しかし、エルニーニョ現象が中程度であるか、または異常な天候をもたらす場合、2023年後半から2024年初頭の出荷量は、過剰な水分によって増殖する病害虫の影響を受ける可能性がある。

米国は2022年にペルーの総輸出量の47%を輸入し、その後もペルー産ブドウの最大の輸出先であると予想されている。

ペルーは4月の公式データで、以前の南米最大のブドウ輸出国であるチリを4万トン、7%の差で上回り、第2位に転落させた。

それ以来、ペルーのブドウ部門は指数関数的な成長を示し続けている。米国への輸出は近年増加傾向を示しており、2022年に報告された輸出額は、輸出が開始された2012年の9倍に相当する。